

いかさまサイコロとフラム地域 —初期近代ロンドンの market との関わりにおいて—

丹羽 佐紀*

(2020年10月21日 受理)

False Dice and Fulham: Gambling and Its Relationship with the Roles of Markets in Early Modern London

NIWA Saki

Abstract

This paper aims to clarify the historical background of Fulham, or Fullam, the name of the south-western part of early modern London and, at the same time, another name for false dice that was used in 16th and 17th-century England. In particular, I focus on the possibility of the relationship between false dice and industries in Fulham in that period by analysing how the movement of trades people in market places in urban areas contributed to an increase in the chance for them to negotiate with a wide range of people outside the licensed markets. Markets made it easy for people in communities to contact each other, share information, and engage in trading activities. This means that they also had a chance to trade items, including illegal ones such as false dice that were related to gambling and other games. I refer to how Fulham was located in an ideal place for various types of trading.

Keywords : いかさまサイコロ、フラム、市場、ギャンブル、商人

* 鹿児島大学 法文教育学域教育学系 准教授

はじめに

シェイクスピアを中心とする初期近代イングランドの劇作品には、ギャンブルで使われるいかさまサイコロへの言及がよく見受けられる。例えば *The Winter's Tale* (1610) 1 幕 2 場でシチリア王リオンティーズは、妻が自分の友人と不貞を働いていると思ひ込み、二人を「いかさまサイコロのように嘘つき」(‘false / As dice are’ (1.2.132-34)) と例える。*The Merry Wives of Windsor* (1600) 1 幕 3 場でピストルは、「いかさまサイコロを振れば」(‘for gourd and fullam holds’ (1.3.92)) 金持ちも貧乏人もみんな巻き上げてやると啖呵を切る。¹ リオンティーズとピストルは階級も立場も異なる登場人物であるが、二人はともに、それぞれの場面における自分たちの状況を最も端的に表す言葉として、いかさまサイコロを引き合いに出している。上演当時の観客には堅気な者もそれなりに多かったに違いないが、劇の様々な場面における役者たちのいかさまサイコロへの言及が、観客に実際のギャンブルの光景を連想させる効果を狙ったものだとすれば、それはまさしく、ギャンブルにいかさまサイコロは付き物という概念が当時の彼らにとって自然であったことを意味する。さらにピストルの上記の台詞にある ‘gourd’ と ‘fullam’ のうち、‘fullam’ は観客に、彼らに馴染みのロンドン中心部からさほど遠くない Fulham という郊外の地域を思い浮かべさせた。

本論では、上記のように役者たちの台詞の端々に出てくるいかさまサイコロの代名詞となった Fulham について、その名を冠するロンドン南西部域の歴史に関する記述のうち、特に 16, 17 世紀における産業に関する文献に焦点を当て、ギャンブルとの関連性を論じる。さらに、いかさまサイコロのような違法な物品を含む様々な商品の取引を可能にした場の一つとして、初期近代イングランドにおける市場の求心的役割に注目し、Fulham 地域との接点を探る。

1. Fulham という言葉の定義

‘Fulham’ という言葉の定義について、*OED* には ‘Of uncertain origin: by some conjectured to be derived from the place-name Fulham, once a noted haunt of gamblers’ (588) とあり、また Webster にも ‘by folk etymology (influence of *Fulham*, London borough formerly much frequented by professional gamblers)’ (918) と記載されている。これらの説明からもわかるように、いかさまサイコロが地名と関連づけられるようになった発端の根拠については推測の域を出ていない。² 一方、*Folklore in Shakespeare* を著した Thiselton-Dyer は、Fulham という言葉の由来として両者の関わりを明確に指摘している。(403) Fulham の歴史を著した Feret は、いかさまサイコロ自体には言及していないものの、当時の教区における住民の様々な断片的記録から、少なくともエリザベス 1 世時代には、ロンドンの他の地域と同様この地域でもギャンブルがよく行なわれていたことを明らかにしている。(Feret, I, 42-51)

上演当時の観客が Fulham という言葉を聞いて、その位置を容易に思い浮かべることが出来た例として、次の作品に注目しておく必要がある。William Rowley (1585?-1642?) の *A New Wonder; A Woman Never Vext* (1610-14) という喜劇の 2 幕 1 場における以下の台詞である。ステューブンという

登場人物が博打うちのヒューとディックの二人とサイコロを投げて賭けをしている場面で、スティーブンは二人が「いかさまサイコロ」(‘Fullum’)を使ったと言い張る。ディックはしらを切りながら、「じゃあプトニーはどこにあるのか言ってみろ」と逆にスティーブンに問い詰める。

Stephen: I thank you, sir, and so much a looser?

There's but the waistband of my suit left: now,

Sweet bones!

Hugh: Twelve at all. [Throws.]

Stephen: Soft, this die is false.

Hugh: False? You do him wrong, sir; he's

True to his master.

Stephen: Fullum!

Dick: I'll be hang'd then! Where's Putney, then, I pray you?

Stephen: 'Tis false, and I'll have my money again.

(*A New Wonder; A Woman Never Vext*, 2.1.93-103)³

1815年のDilkeの注に、‘*Fullum* or *Fulham* was a well-known name for false dice. One of the cheats therefore sneeringly asks if one of the dice was Fulham, which of them was Putney, as Putney is on the Thames immediately opposite to Fulham’ (262) とあるように、3人の会話から、当時のいかさまサイコロが、*Fulham*だけでなくテムズ川を挟んだ対岸の *Putney* とセットで、実在の地名を用いてかけ言葉のように用いられていたことがわかる。実際に住んでいなくても、当時の観客がスティーブンやディックのやりとりを聞き、2つの地域について特別なイメージを共有するための機能を果たしているという点で、この場面は重要である。*Fulham* はやはり、彼らにとって特別な意味を持つ場所だったのである。

2. ロンドン西南部の *Fulham* について

16世紀から17世紀にかけての *Fulham* とはどのような地域であったのだろうか。現在はロンドンのほぼ中心部に位置し、繁華街の一角を成しているかつての教区 (the parish of *Fulham*) は、テムズ川の北岸に位置し、東は *Chelsea*、西は *Chiswick* 及び *Acton* と境界をなす。Faulknerによれば、William Camden (1551-1623) の *Britannia* (1586) に *Fulham* に関する説明があり、そこではもともとサクソン語の ‘*Fullonham, Volucrum Domus*’, すなわち ‘the habitation of birds, a place of fowls’ という意味から来ているとされており、実際 *Fulham* では Camden の説が広く受け入れられていると述べている。(2)⁴ この地域は、気候も比較的温暖であるため、中世以降16世紀から17世紀にかけては農地が広範囲に広がっていた。また Feretによれば、教区の死没者記録から、住民の主な生業とし

て野菜や果物の栽培を中心とする husbandry の他、labourer, gardener, waterman, cordwiner, victualer など様々な肩書が見受けられる。(Feret, I, 40) 16世紀から17世紀にかけてロンドン中心部の人口は急激に増加したが、それに伴い野菜、果実など生鮮食料品の需要も高まったため、Fulham 地域で栽培される野菜類はほとんどロンドンの市場へ出された。このような状況から、経済活動が盛んに行なわれていたことが伺える。

また教区の南側の境はちょうどテムズ川に面していることから、Faulkner と Feret のいずれの説明にも、当時は淡水魚を中心とする様々な種類の魚がテムズ川で獲れ、漁も盛んであったことが記されている。(Faulkner, 4-5, Feret, I, 31-38) さらに魚は食用としてだけではなく、「その鱗をユダヤ人が偽真珠を造る目的で」取引されたとも述べられている。鰻もよく獲れ、その捕獲方法として「かご編み状の笊(うえ)を使用した」が、生業のための必需品ともいえるこれらの道具類全般は、当時市場にもよく並べられた商品である。このような描写も、生産と消費が入り混じる、人と物の接点としてのロンドン市場とその近郊のつながりを示す一例と言える。

The season for the blennetting for roach and dace begins on the first of July. They are caught here in great abundance, especially after a heavy rain. Their scales are sold to the Jews for the purpose of making false pearls, and are worth from twelve shillings to a guinea per quart. . . . Eels are caught hereabouts very large and fine. The principal method of taking them is by means of pots made of basket-work, laid at the bottom of the river. A great many are also taken by bobbing. (Faulkner, 4-5)

農産物や魚類の売買は季節的な条件に左右されるとはいえ、ロンドン人口の増加、及び中心部に比較的近く、交通手段として陸と川の両方を利用できたという利便性もあり、Fulham の地域的な産業全般から見れば、住民たちの生活は収入を見込める経済活動の上に成り立っていたと言える。

他方で、皮肉にもこのような Fulham の農業や漁業の隆盛は、Beier が述べるように、不安定な雇用状況を生み出しているロンドンと対照をなしつつ、その経済を支える一側面を担っていた。

The reason for the plethora of idle youngsters was that the metropolitan economy was incapable of providing them all with regular work. As well as living in slum conditions, the migrant was likely to be underemployed, when not unemployed. Ironically, London's economy was expanding during the period. Its rise to a monopoly position in English cloth exports, its growth as a centre for conspicuous consumption, and its booming agricultural trade must have generated considerable demand for labour. (44)

さらに Faulkner の記述には、当時の砂州 (sand-bank) に関する説明もあり、Fulham のテムズ河岸の土は昔から建築に適しており、石灰と混ぜて使用される目的でロンドン中心部へ運ばれたとされる。

(5)

3. Fulham における娯楽と処罰の記録

当時、実際にこの地域でどれだけギャンブルが盛んであったのかについて、公式に発表された統計資料を探すのは困難であるが、Feret が挙げている 1654 年と 1659 年の Parish Book には、ゲームの類をしていたかどで罰金を科せられた者たちの過去の断片的記録がある。これらの資料から、記載されている事例が氷山の一角で、取り締まりの対象として摘発された案件以外にもギャンブルに興じていた人が、長い年月に渡って一定数いたと見るのが自然であろう。取り締まりの対象となった違法行為は以下の例からもわかるように、サイコロ、ボウル、カードなど様々である。

The amusements of the inhabitants of Fulham in ancient times were not always of the most harmless character.

Dice

(1) 1474 Two men named Henry Halle and Thomas Fuller, who were ‘commonly wont to convey privately and to keep safe all in their houses and to play at ‘*talos*’ (*i.e* dice) and other illicit games at a time when they ought not,’ were fined 6d. each. (Court Rolls)

(2) 1475 John Aleyn of Westend (*i.e.* West End, Hammersmith), Thomas ffuller and John Aleyn, son of Roger Aleyn, were presented because ‘they are wont to play at ‘*talos*’ and other illicit games and to sit up all night and sleep all day (*ac vigilare p’ tota. Noctem et dietum dormire*) and are not willing to serve or to work when required.’ Accordingly, John Aleyn of Westend was fined 12d. and the other two 6d. each. (Court Leet)

Bowls

(1) 1524 Bowls, always a popular game with Fulham men, were interdicted at a View in 1524: ‘No one inhabiting within this Lordship shall play at the game of bowls under penalty xjd.’

(2) Bishop Aylmer used to play at bowls in the grounds of Fulham Palace.

(3) 1609 It was presented that: ‘Thomas Iles, gent., John Pulford, gent., Master Longe, John Yated and divers others play at Bowles for their recreation Wherefore in mercy 6s. 8d. each.’

(4) In Puritan times a special licence had to be obtained from the Lords of the Council before a person could construct a bowling green.

Cards

(1) 1507 The following presentment was made: ‘Alice, wife of Lewis Davy, keeps bad rule in her house and permits the servants of divers of the tenants to play at cards (*ad cardas*) and such like for the whole night to the common nuisance.’ (Court General)

Under the Commonwealth the laws against drunkenness, gambling and other offences were enforced with

Puritanical zeal.

(Adapted from Feret, I, 48-61)

乳原によると、当時のイギリスの貨幣制度は1ポンド20シリング、1シリング12ペンス、1クラウン5シリング、熟練職人の日当1シリングであったというから、罰金の額は決して安くない。(122-25) Feret は、これらの徴収された罰金は貧民救済もしくは慈善活動への寄付に充てられたとしているが、事実関係については不明である。ちなみに乳原はブライドウェル矯正院の犯罪記録を内容ごとに分類し、各々の事例を紹介している。そこでも違法ゲームのかどで処罰された個々の記録内容から、例えば徒弟やサーヴァントだけでなく、親方である職人層が罰せられるなど、当時のギャンブルを取り巻く背景が垣間見える。

さらに Ashton は、聖職者たちもかなりゲームに精通していた事実に触れ、1529年にケンブリッジのセントエドワード教会で、ラティマーという説教師がカードゲームの比喻を用いて霊の真実について説教をしたところ信徒たちの受けが非常に良く、町でも大学でも話題になったという例について述べている。(28) それは具体的には、エリザベス1世時代に上流階級の間で最もファッショナブルなゲームであったと Thiselton-Dyer が述べるところの、プリメロとトランプの比喻を用いた説教で、トピックの選定はかなり異教的ではあったが反響が大きく説教は大成功であったこと、この噂を聞きつけて、同じくケンブリッジのドミニコ修道会副院長ブッケナムが、礼拝説教でサイコロの比喻を用いた話をしたことが紹介されている。(Thiselton-Dyer, 414)

Feret はこの他、18世紀に Fulham で発見された16、17世紀の人骨やコインに関する事件や、Golden Lion と呼ばれる居酒屋を諸々の演劇人が頻繁に訪れた形跡について、1847年に Mr. Crofton Croker という学者が論文を発表した例も紹介しており、これらの記録も当時の Fulham とギャンブルとの関連を知る手がかりとなる。⁵

4. 初期近代イングランドにおける市場

さて、このような Fulham の当時の経済活動を、特に市場の存在という視点からギャンブルに結びつけ、いかさまサイコロの入手経路について考えてみたい。16世紀後半から17世紀前半における人口増と消費者需要の高まりが、地方の手工業や新しい事業を促す契機の一つともなったことについて、Pennington は次のように述べている。

And yet the late sixteenth and early seventeenth centuries were marked by new opportunities as well as perils. Population growth and new consumer demands prompted manufacturing and commercial entrepreneurship. The rise of rural industries to satisfy demand for novel consumer goods—including such items as playing cards, tobacco pipes, and glassware—was one response. (7)

新しい消費者需要に応えるために、日常生活のための必需品はもちろん、「カード、タバコ、ガラス

製品」などを生産する産業が発達したのである。そして中世の封建主義から資本主義へ移行する初期近代イングランドにおいて、地域ごとのコミュニティ形成及び経済活動の求心的役割を果たした市場の存在を支えた人々は、Walter によれば、いわゆる ‘middling-sort (wealthy farmers, traders and artisans)’ といいた人たちであった。(16) Pennington によれば、16 世紀後半にイングランドで既に 650 以上あった市場は、1700 年までに 750 あまりに増え、需要に対する供給源としてイングランド全体の経済活動を活性化させた。(9) このような経済活動発展の一役を担う、都市部の市場における生産者と商人の接点について、Pennigton は次のように説明する。

In urban communities, markets were not dominant commercial institutions but rather loose foci around which men and women conducted business. Paradoxically, because marketplaces attracted producers and their goods, they were also magnets for traders, both men and women, whose commercial activities undermined the very principles upheld by the market regulations. Buyers regularly intercepted suppliers on their way to the market; others bought goods in the marketplace with the expectation of selling them later and elsewhere at a higher price. (9)

生産者から消費者へと品物が渡るまでに、それをつなぐ middlemen, dealer といった仲買人が絡む個々の物流形態は、ビジネスの多様化をもたらした。行政当局が世帯単位ごとに market-place で場所を決めて商いをさせるという、治安維持効果を目的とした取り締まりは、人と物の安定強化を必ずしも保証するものではなかった。Walter は、市場は村から町の中心部へ、同時にその逆へと人々の移動を促したが、この事は人々がそのような場所へ共に集まり、そこでは異業種の徒弟や若者たちが交流し、情報交換しやすい環境が自然な形で創り上げられたことを意味すると述べる。(16) それゆえにこそ市場は、後に民衆運動の中心人物となった徒弟や若者たちとも密接な関わりを持つのである。Walter は、実際にオクスフォード州を中心に起こった一揆について、その時の状況を分析している。

このように、商い以外にも様々な機能をもつ市場は必然的に、許可を得た上で売られている以外の商品についても取引を容易にした。例えば Pennington は、当時の市場における女性たちの状況について詳述している。家父長制のもと、毎週定まった場所で商売できるのは家長である男性であったが、通常多くの市は夫婦単位で関わるが多く、実際には夫よりも妻たちが商売を仕切り、その活躍と情報交換は、行政当局の許可を得た商品以外の品物の売買に大きく寄与したとされている。(7-12) 売買や交渉は市場のみで行なわれたとは限らず、その行き帰りの路上でも行なわれた。また近所づきあいのネットワークを生かし、食糧や生活必需品だけでなく副産物や自分の手工芸品を売りさばく機会もあった。さらに夫が亡くなった後も引き続き、家長である夫の名を使って妻が商いを続けるケースなど、市場を起点としながらも市場での取引には見えてこない経済活動が多々あったのである。

また Goodacre は特にロンドンの状況について、private shops の広がりが見られたことを指摘している。(175-87) 所有者は市場で商いをせず店を構えて商売するので定住はしているが、一つの建物に複数の小売店を備え、それぞれの店で看板とは全く別の品物を売ったり、毎年所有者の肩書や中の店を入れ替えたりする。このような private shops の広がり、人の出入りから町の inn の発達とも密接に関係しているが、inn の増加はギャンブルの増加を生み出し、そこでいかさま行為が繰り返される機会も多くなるという連鎖を生む。

さらに、当時は住所不定の行商人も多かった。定まった住居を持たない行商人には、金属細工師、金属に加工を施す技術など特別なスキルを持った者が多く、彼らの技術力と活動の広範性はギャンブルとの接点の機会を持ちやすかった。いかさまサイコロには、耐久性に優れ、加工もしやすい鉛が用いられることが多く、不純物も含めてこのような材料や加工品の調達を可能にするルートとして、行商人と接触する機会を人々がロンドン界隈の市場に求めることも十分可能であった。

ロンドン中心部や比較的賑わいのある地方都市では、市場に対する行政の取り締まりも厳しく、同時に商いをする者同士の相互監視も働いたので、行商人が長期的に同じ場所をうろついて商売するのは難しかった。その点において、Fulham のように、地場産業がロンドン中心部の市場と直接つながり、ロンドンの情報入手や人の往来も盛んでありながら、地理的には当時の中心部から若干はずれているといった条件が揃った所では、取り締まりの対象になるものでさえ、地域的特性を表す一つの側面として人々の記憶に根付いたと言える。

終わりに

初期近代イングランドの劇作品において、fulham, fullam といういかさまサイコロを表す言葉は、その響きゆえに当時の観客を劇場空間から日常生活の場へと誘った。様々な場面で発せられるこの言葉は、非日常的な劇のあらすじ展開において、瞬間的に観客をロンドンという街へ引き戻し、そこに自分たちがいるという思いを共有させる効果を持っていた。その効果は、市場が持つ求心性とも重なり合う。Fulham という地域は、人々が同時に集まる市場のような空間を、観客が劇空間において具体的にイメージしやすい場所としての役割を担ったのである。当時ギャンブルは違法であったとはいえ、行政当局の取り締まりをかいくぐってでもなお人々がギャンブルに興じ、いかさまサイコロが使われたロンドンの一面が劇の中に体現されたのである。

*本論は、『科研プロジェクト第2回研究会×九州シェイクスピア研究会第189回例会』（2020年3月21日 於九州大学西新プラザ）において口頭発表をした原稿に加筆修正を施したものである。）

註)

1. 『ウィンザーの陽気な女房たち』1 幕 3 場におけるいかさまサイコロへの言及については、拙論「初期近代イングランドのギャンブルといかさまについて—『テンペスト』のチェスの場面を起点として—」(『鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編』第 70 巻 p. 106 においても、dice が使われている場面として取り上げている。この他、拙論「不貞といかさまバクギャモンをめぐる「探り」の場面の劇的効果— A Pleasant Comedie of the Two Angry Women of Abington における疑惑の描写をめぐる—」(『VERBA 鹿児島大学言語文化論集』第 43 号 pp. 25-33) において、実際にバクギャモンをしている場面で登場人物がいかさまサイコロ使用の可能性を指摘している場面を紹介している。
2. ‘Fulham’: Of uncertain origin: by some conjectured to be derived from the place-name Fulham, once a noted haunt of gamblers. Another conjecture is that the oldest form fullan: ‘full one’ which would suit the sense. A die loaded at the corner. (A high fulham was loaded so as to ensure a cast of 4, 5, or 6; a low fulham, so as to ensure a cast of 1, 2, or 3.) (*OED: Being a Corrected Re-Issue with an Introduction, Supplement, and Bibliography of a New English Dictionary on Historical Principles*, Vol. IV: F-G, Oxford: Oxford at the Clarendon Press, 1933) 588.
 ‘Fulham’: perh. by folk etymology (influence of *Fulham*, London borough formerly much frequented by professional gamblers) fr. earlier *fullan*, perh. fr. full+one, n: a loaded die. (*Webster’s Third New International Dictionary of the English Language Unabridged*, ed. Philip Babcock and the Merriam-Webster Editorial Staff, Springfield: G. & C. Merriam Company, 1961)918.
3. William Rowley, *A New Wonder; A Woman Never Vext*, ed. Charles Wentworth Dilke, *Old English Plays; Being a Selection from the Early Dramatic Writers*, Vol. V (London: Whittingham and Rowland, 1815, Rpt. Miami: HardPress, 2019)234-348.
4. William Camden の記述については、*Britannia* の英語版に次のような記述がある。‘Then by the *Tamis* fide is *Fulham*, in the English Saxon tongue Fullonham, that is, *The place of Foules*: the greateft credite and honor where of is the Bifhop of Londons houfe fstanding their conveniently, not farre from the Citie, albeit not fo healthfully.’ (421)
5. As the workmen were employed in removing the ground to raise the bank at the river-side, they discovered, at about four feet from the surface, two human skeletons laying parallel with each other. . . . Some time after this discovery, two more skeletons were found under a hedge with daggers laying by their sides; at the same time were dug up various pieces of money, consisting of silver pennies of Edward VI, coins of Queen Elizabeth, James I. . . . (Feret, III, 86)
 Golden Lion...In July 1847, Mr. Crofton Croker read, at the meeting of the British Archeological Association, held at Warwick . . . ‘On the Probability of the ‘Golden Lion Inn,’ at Fulham, having been frequented by Shakespeare about the years 1595 and 1596.’ Croker points out that there lived in and

about Fulham such men as John Florio, the translator of the *Essays of Montaigne*, John Norden, the topographer, John Fletcher, the playwright, Robert Burbage, a distant connection of Richard Burbage, Shakespeare's fellow actor, Joshua Sylvester, and Henry Condell, another fellow actor. (Feret, I, 144-45)

Bibliography

- Ashton, John. *The History of Gambling in England*. London: Duckworth & Co. 1898. Rept. Athena Library of English Studies. Part 3, Vol. 9. Tokyo: Athena Press, 2006.
- Awdelay, John, Thomas Harman, and Thomas Haben. *The Rogues and Vagabonds of Shakespeare's Youth: Awdelay's 'Fraternite of Vocabondes' and Harman's 'Caveat.'* Ed. Edward Viles and F. J. Furnivall. New York: Duffield & Company, 1907. Palala Press, n.d.
- Beier, A. L. *Masterless Men: The Vagrancy Problem in England 1560-1640*. London: Methuen, 1985.
- Berg, Maxine, Pat Hudson, and Michael Sonenscher, eds. *Manufacture in Town and Country before the Factory*. Cambridge: CUP, 1983.
- Burt, Isabella. *Historical Notices of Chelsea, Kensington, Fulham, and Hammersmith with Some Particulars of Old Families: Also an Account of Their Antiquities and Present State*. London: J. Saunders, 1871. Rpt. n.d.
- Camden, William. *Britannia*. 1580. *Historical Cultures and Geography, 1600-1750*. Ed. Robert Mayhew. Vol. 2. Thoemmes, 2003.
- Dilke, Charles Wentworth, ed. *Old English Plays; Being a Selection from the Early Dramatic Writers*. Vol. V. London: Whittingham and Rowland, 1815. Rpt. Miami: HardPress, 2019.
- Faulkner, Thomas. *An Historical and Topographical Account of Fulham: Including the Hamlet of Hammersmith*. London: J. Tilling, 1813. Rpt. Franklin Classics, n.d.
- Feret, Charles James. *Fulham Old and New: Being An Exhaustive History of the Ancient Parish of Fulham*. Vol. I. London: The Leadenhall Press, Ltd. 1900. Rpt. Michael Wood and FamLoc, 2015.
- *Fulham Old and New: Being An Exhaustive History of the Ancient Parish of Fulham*. Vol. III. London: The Leadenhall Press, Ltd. 1900. Rpt. Kessinger Publishing, n.d.
- Foster, Joseph. *Card-Sharpers: Their Tricks Exposed or the Art of Always Winning*. Trans. Robert-Houdin. London: Spencer Blackett, 1891. Rpt. Alpha Editions, 2019.
- Goodacre, John. *The Transformation of a Peasant Economy: Townspeople and Villagers in the Lutterworth Area 1500-1700*. Aldershot: Scolar Press, 1994.
- Pennington, David. *Going to Market: Women, Trade and Social Relations in Early Modern English Towns, c.1550-1650*. Farnham: Ashgate, 2015.
- Porter, Henry, FL. *The Two Angry Women of Abingdon*. 1599. Cornell University Press, 1891. The Tudor

- Facsimile Texts. Ed. John S. Farmer, 1911. Rpt. HardPress, n.d.
- *A Pleasant Comedie of the Two Angry Women of Abington*. 1599. Ed. Charles Milles Gayley. *Representative English Comedies, with Introductory Essays and Notes, an Historical View of Our Early Comedy, and Other Monographs*. New York: The Macmillan Company, 1907. 541-634.
- Rowley, William. *A New Wonder; A Woman Never Vext*. Ed. Charles Wentworth Dilke. *Old English Plays; Being a Selection from the Early Dramatic Writers*. Vol. V. London: Whittingham and Rowland, 1815. Rpt. Miami: HardPress, 2019. 234-348.
- Shakespeare, William. *The Winter's Tale*. Ed. John Pitcher. The Arden Shakespeare. London: Bloomsbury, 2010.
- *The Merry Wives of Windsor*. Ed. W. J. Craig. *The Complete Works of William Shakespeare*. Oxford: OUP, 1905. Rpt. 1955. 45-71.
- Strutt, Joseph. *The Sports and Pastimes of the Peopple of England: Including the Rural and Domestic Recreations, May Games, Mummeries, Shows, Processions, Pageants, and Pompous Spectacles, from the Earliest Period to the Present Time*. London: Printed for Thomas Tegg, 1845. Rpt. HardPress, n.d.
- Thiselton-Dyer, Thomas Firminger. *Folklore of Shakespeare*. New York: Harper & Brothers, 1884. Rpt. Hansebooks, n.d.
- Walter, John. *Crowds and Popular Politics in Early Modern England*. Manchester: Manchester Univ. Press, 2006.
- 乳原孝『エリザベス朝時代の犯罪者たち ロンドン・ブライドウェル矯正院の記録から』（嵯峨野書院）1998年
- 丹羽佐紀「初期近代イングランドのギャンブルといかさまについて―『テンペスト』のチェスの場面を起点として―」（『鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編』）第70巻, 2019. 103-112.
- 丹羽佐紀「不貞といかさまバクギャモンをめぐる「探り」の場面の劇的効果― *A Pleasant Comedie of the Two Angry Women of Abington* における疑惑の描写をめぐる―」（『*VERBA* 鹿児島大学言語文化論集』）第43号, 2020. 25-33.